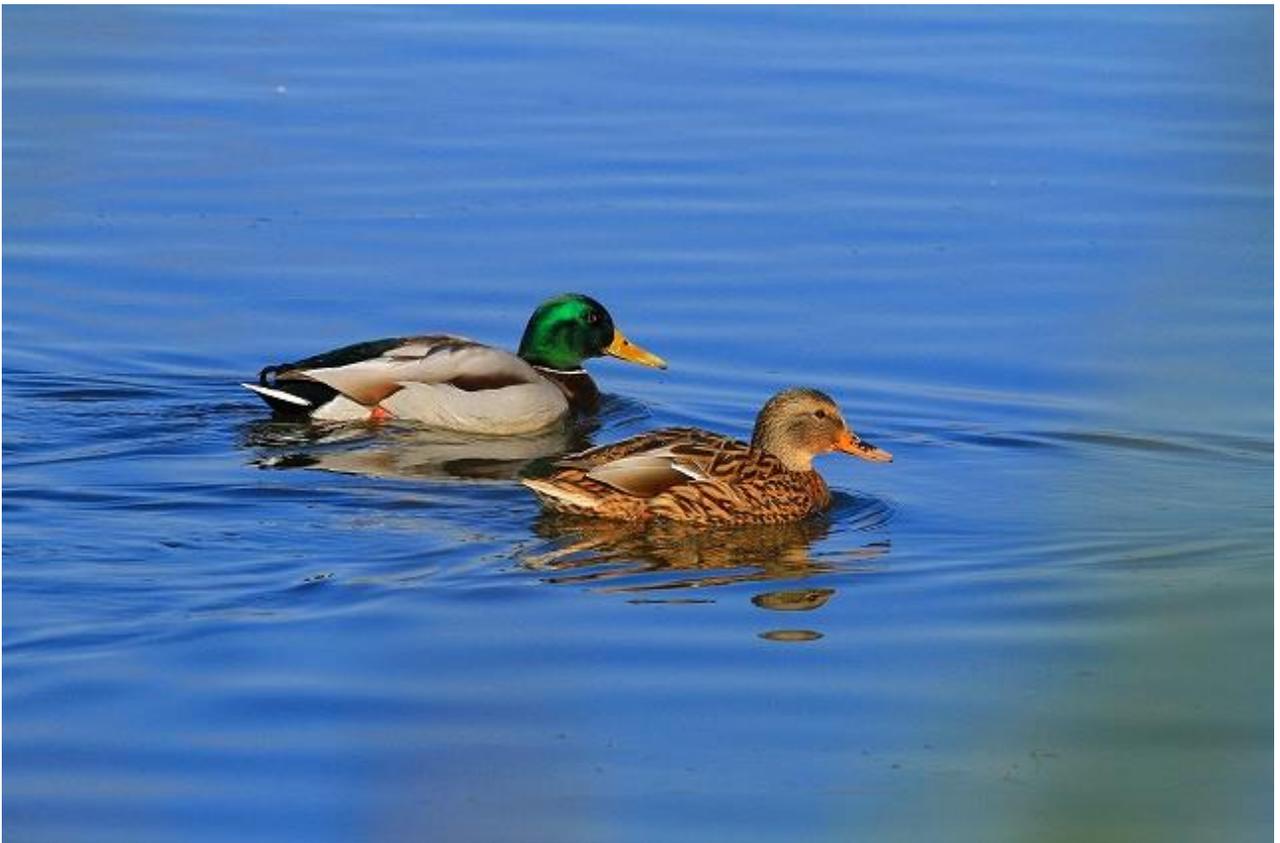


# よしきい

2020年11月15日



マガモのカップル 秋空を映す淡水池で

## 目次

- 公園の風景
  - 潜らないカモ、潜るカモ・・・1
  - クモのアーケード・・・1
  - 秋のボランティア説明会・・・1
- きらら浜 蜂蜜物語 ①・・・2
- みんなのひろば
  - 日々 雑感・・・2
- 活動紹介
  - 山口湾クロツラ報告・・・3
  - きらら浜ウォークラリー&葦の会展・・・3
  - 雷魚を釣る・・・3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

「葦の会」はきらら浜自然観察公園を中心に、自然を知り・  
親しみ・守る団体です。自然を楽しみながら、その素晴らしさ  
を伝える活動をしています。一緒にしませんか？

**会員募集中！（高校生以上）**

# 公園の風景

## = 潜らないカモ、潜るカモ =

この秋も 10 月初旬のコガモの到着を皮切りに、淡水池には様々なカモたちが次々に飛来しました。見分けはなかなか難しいですが現在 10 種類くらいはいるようです。そんなカモたちを観察していると、カイツブリのように突然水面から消えて、しばらくすると別のところからズボッと現れるものがあります。キンクロハジロやホシハジロなどで、潜って水底の藻や水草などを食べているのです。また、首だけを水に突っ込みお尻は水面に出して採餌するのは、マガモ、オナガガモ、ヒドリガモなど。



キンクロハジロとオカヨシガモ



ハシビロガモ

一方、水面に浮かんだままプランクトンや水草などを食べているハシビロガモ、コガモ、オカヨシガモなども、水中に何かおいしそうなものを見つけると、自分が「潜らないカモ」であることも忘れ潜ろうと頑張ることもあるようです。カモには一応、水面採餌をする「潜らないカモ」と、潜水採餌をする「潜るカモ」とがいるのですが、どんなカモも案外「やればできるカモ」なのかもしれませんね。

## = クモのアーケード =

天高くクモも肥ゆる秋。丸々と太ったジョロウグモたちが幾重にも巣をはり、園路はアーケードのようになっています。巣の真ん中にどっかり腰を据えているのはメス。その周りでこそっとしている小さいのがオス。さらにゴミのふりしてちゃっかり居候しているイソロウグモ。よほど餌が採れるのでしょう、翅だけになったトンボに、糸でぐるぐる巻きのカメムシなど、食べかすもたくさんくっついていきます。アーケードをくぐりながらウィンドウショッピングならぬ「クモの巣ウォッチング」。意外と楽しいですよ。



青空に城を築くや蜘蛛の糸

## = 秋のボランティア説明会 =

9月27日(日)に開かれたボランティア説明会は、近年にない多数の参加者を迎えての開催となりました。2001年、阿知須干拓地に当公園が開園されるに至った経緯とその2年後から始まったボランティアの活動、今後の目標など、園長による説明がありました。その後に皆さんから伺った、フレッシュで前向き、意欲を感じるメッセージに現役葦の会会員は大いに刺激を受けました。

一同で園内を散策し、ボランティア4チームのリーダーが活動内容を紹介し、更に新企画として、資格を有する葦の会代表による手話のミニ講座が開かれました。自然観察を手話で行うことを目指すこの講座は、毎月第3土曜日の13時から継続開催されていますので、どなたでも是非ご参加下さい(12月は第4土曜日です)。



当日、10時から17時の説明会解散まで、長時間を共有していただいた皆さんとこれから一緒に活動できることを楽しみにしています。

# きらら浜 蜂蜜物語 ①

昨年より園内に置かれた養蜂箱の管理をされている、養蜂家で葦の会会員のNさんとその息子さん。冬を前にして日々の作業がひと段落するこのタイミングに時間を頂き、蜂蜜のあれこれを伺うことができました。



pixta.jp - 66629509

公園にも飛んで来て花々の蜜と花粉を集めるミツバチ達、数あるハチの中でどうしてミツバチだけが蜂蜜という素晴らしい物質を作れるのでしょうか？

ミツバチたちは半径2.5キロの範囲を飛び回って、季節ごとに咲いている花から蜜や花粉を集めてきますが、花のある時期の働きバチの寿命は約一か月、一匹のミツバチ(働きバチ)がその生涯に集める蜜は何と小さなティースプーン一杯分とのこと！それを知ると、ミツバチに申し訳なく「心していただかなくては」という気持ちになりますね。

味わい食すだけから一歩踏みこみ、Nさんから聞いたミツバチの不思議と、人とミツバチを繋ぐ養蜂のことなど、次号より季節を追ってお伝えしていきます。

つづく

## みんなのひろば😊

### 日々 雑感



コロナ禍の自粛生活が板に付き、ほぼ引き籠もり(巣ごもり)状態で暮らしています。無駄なお金もかからず年金暮らしには好都合か？でも、いささかウンザリですね。引き籠もりのお陰か、自宅の庭にも色々な野鳥や生き物がやって来ることが判り、楽しませて貰っています。葦の会に長く在籍しても鳥の名前はほとんど判りません。覚えられない？(苦笑)

先般の台風で傷ついた様子のサギがやって来ました。追うと逃げるし捕獲も出来ず仲間のサギも上空を飛び回るだけでした。剥製づくりを得意とする会員につなぐことも出来ず重ね重ね残念でした。

先日、ふれあいまつりの代替行事と葦の会展が開かれました。皆さん色々趣味を持たれて素晴らしいと思いました。力作を拝見し、無芸大食、無趣味な自分に恥じ入るばかりです。カメラは多少弄りますが芸術の域にはとても達しません。

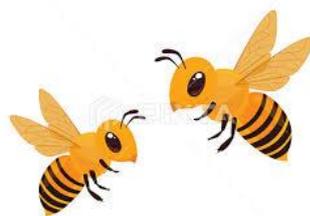
当ボランティアは、たくさんの鳥や生き物に会える楽しさと会員の皆さんとの交流の楽しさにパワーをもらって何とか続いています。いつまで続けられるか判りませんが、細々ながら活動しようと思います。

(jun)



# きらら浜 蜂蜜物語 ①

昨年より園内に置かれた養蜂箱の管理をされている、養蜂家で葦の会会員のNさんとその息子さん。冬を前にして日々の作業がひと段落するこのタイミングに時間を頂き、蜂蜜のあれこれを伺うことができました。



pixta.jp - 68629509

公園にも飛んで来て花々の蜜と花粉を集めるミツバチ達、数あるハチの中でどうしてミツバチだけが蜂蜜という素晴らしい物質を作れるのでしょうか？

ミツバチたちは半径2.5キロの範囲を飛び回って、季節ごとに咲いている花から蜜や花粉を集めてきますが、花のある時期の働きバチの寿命は約一か月、一匹のミツバチ(働きバチ)がその生涯に集める蜜は何と小さなティースプーン一杯分とのこと！それを知ると、ミツバチに申し訳なく「心していただかなくては」という気持ちになりますね。

味わい食すだけから一歩踏みこみ、Nさんから聞いたミツバチの不思議と、人とミツバチを繋ぐ養蜂のことなど、次号より季節を追ってお伝えしていきます。

つづく

## みんなのひろば😊

### 日々 雑感



コロナ禍の自粛生活が板に付き、ほぼ引き籠もり(巣ごもり)状態で暮らしています。無駄なお金もかからず年金暮らしには好都合か？でも、いささかウンザリですね。引き籠もりのお陰か、自宅の庭にも色々な野鳥や生き物がやって来ることが判り、楽しませて貰っています。葦の会に長く在籍しても鳥の名前はほとんど判りません。覚えられない？(苦笑)

先般の台風で傷ついた様子のサギがやって来ました。追うと逃げるし捕獲も出来ず仲間のサギも上空を飛び回るだけでした。剥製づくりを得意とする会員につなぐことも出来ず重ね重ね残念でした。

先日、ふれあいまつりの代替行事と葦の会展が開かれました。皆さん色々趣味を持たれて素晴らしいと思いました。力作を拝見し、無芸大食、無趣味な自分に恥じ入るばかりです。カメラは多少弄りますが芸術の域にはとても達しません。

当ボランティアは、たくさんの鳥や生き物に会える楽しさと会員の皆さんとの交流の楽しさにパワーをもらって何とか続いています。いつまで続けられるか判りませんが、細々ながら活動しようと思います。

(jun)

